



PGMは親会社(株)平和のウェブサイトではSDGsの取り組みを紹介

同コースはすでに浴室で脱いだ衣類を入れるビニール袋や、プラスチック製の鉛筆、グリーンマーカー、グリーンフォークなどの削除に乗り出しているが、SDGs宣言後はチームが激減したという。

「以前は『ビニール袋はないの?』とか『スコアカードは?』と聞いてくる方がいましたが、今はほとんどいなくなりました」(同クラブの関係者)。

GPSナビを導入したことで、スコアカードと鉛筆が不要になる。

「それを説明するだけで『ああ、そうだよね』と納得してくれる方も増えました。必要な方には鉛筆もプラスチック製でないものをお配りするようになっています」(同)。

また、地元産のそば粉を利用した10割そばを提供したところ大盛況。宣言書では「今後も地元産を活用したメニューに取り組み、持続可能な商品開発に貢献する企業を目指します」としている。

13番目の「気候変動に具体的な対策を」という項目に合致する取り組みとして今年が20本、2030年に向けて50本の植樹も宣言している。

女性の活躍にも前向き

栃木の鹿沼カントリー倶楽部はメインバンクのサポートを受けSDGs宣言。その内容で、特に目を引くのは職場環境の改善に注力しているところだ。

「地元メインバンクである足利銀行のお力を借りて、今年の3月30日にSDGs宣言いたしました。内容としては、子育てサポートを充実し『※くるみん認定(編集後記参照)』の取得を予定していること。女性活躍、子育てサポート、社員の働きがい向上等のSDGsプロジェクトを発足させました。また、女性の活躍推進と組織改革に取り組み、人事異動で女性の支配人、幹部、管理職などを増やします。産休・育休制度利用者は延べ13名(男性1名)、現在育休中2名、今後産休予定1名、時短制度利用者も延べ10名に上っています」(鹿沼グループ経営管理本部・経営企画部兼ゴルフ場営業本部・デジタルマーケティング推進室の荒川磨理部長の話)。

さらに地産地消を推進するため地元と連携し、ネギ・リンゴ等を販売。廃プラ削減にも積極的に、ビニール袋の提供を終了したほか、レストランではマドラーを希望者のみに渡すスタイルに変更し、ストロークは紙製に

変えた。

こちらも羽後カントリーと同じくマスター室でグリーンフォーク、マーカーの提供方法を変えている。

「ご入用の方はマスター室スタッフへ声掛けいただくようにしております」(前出の荒川部長)。

国内146(うちリース1)のゴルフ場を運営するPGMの強みは、やはりそのスケールメリット。CO2の削減も、乗用カートの電動化などでは台数が多いだけにその効果も大きい。

「コースでお乗りいただくガソリンカートはバッテリーカート、リチウムイオンバッテリーカートへの移行を進めており、環境に配慮しております。また電気自動車用の充電器は約10コースに設置しており、中でも総武CCには20台分の充電器を設置しております。

また設備関係ではナイター設備のLED化の導入をしています。プラスチック問題にはストロークを環境配慮済みの素材に変更し、プロシヨップの買物袋は有料化することで対応しています」(PGM広報グループの話)。

国内で169のゴルフ場を運営するアコーディアネクスグループは